

幅広い 福祉広報紙に!



「大阪の社会福祉」 創刊当初の思い出 古閑 慶之

「大阪の社会福祉」紙が本年をもって四百号を迎えるという。よくもまあ統一されたものだというのが、創刊は昭和二十六年三月、三年前施行の「児童を同業団におき、その経

が大きい右旋回をしなければ、とくに大阪市民共済会市民援護事業団の主幹であり、三井正雄氏の絶大な理解と協力により発行事務所



タブロイド版になった昭和26年1月の第10号

福祉関係者の 総力をあげて

メンバーが当ることになり、とくに大阪市民共済会市民援護事業団の主幹であり、三井正雄氏の絶大な理解と協力により発行事務所

第1号からつづく コラム「H・B」

日誌などで、今よく整えられた美しい老人福祉



昭和55年5月の第300号

よく整えられた美しい老人福祉

日誌などで、今よく整えられた美しい老人福祉

日誌などで、今よく整えられた美しい老人福祉

生活保護事業を中心とする貧困者救済の社会福祉に「見直し論」は、昭和四十年代から。最初は単なる福祉財政の見直しとして主張されたが、今日では児童、老人、障害者等、いわゆる「社会的弱者」に対するケア・サービスこそ、この社会福祉の真実の解決にはならぬ。真実の社会福祉ニードとは、問題当事者の身体的、心理的能力の欠陥ではなく、主として私的な社会福祉事業である。彼らの社会関係の欠陥である。生活に必要な多数の社会関係のうちで最も基本的なものは、対等平等の人間関係である。従って通

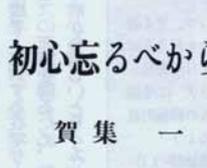
本紙の原稿依頼と前後して大阪市民援護事業団三十二年史を贈られて思い出した。私は最近、元大阪市民生局長(昭和二十六年から六十二年)で大きな業績をあげた北正氏から、戦後復興期の大阪市政を語った。大阪の歴史「二十四号」の日に時が過ぎたわけだ。大阪の社会福祉の発展に矢張り矢張り、構の図解や同胞援護会が、H・Bは創刊以来四百号まで、続いていく唯一のコラムである。前半は主として、後半は私が担当しているが、特に初期の買集氏の鋭い問題指摘は時として物議をかもし、今

「大阪の社会福祉」の発行四百号おめでとうござい。と、今、日本は社会福祉の大きな変革期に入っています。私も老人福祉理事として、



「福祉見直し」の 見なおしと社協 岡村 重夫

「見直し論」は、昭和四十年代から。最初は単なる福祉財政の見直しとして主張されたが、今日では児童、老人、障害者等、いわゆる「社会的弱者」に対するケア・サービスこそ、この社会福祉の真実の解決にはならぬ。真実の社会福祉ニードとは、問題当事者の身体的、心理的能力の欠陥ではなく、主として私的な社会福祉事業である。彼らの社会関係の欠陥である。生活に必要な多数の社会関係のうちで最も基本的なものは、対等平等の人間関係である。従って通



初心忘るべからず 賀集 一

援護事業団(前身は市民援護会)と財団法人大阪社会事業協会(財団の前身)と大阪社会事業青年会(今も現役で活躍の田尻玄龍、古閑慶之氏ら中心)の三者一体の共同編集で発足したことは素晴らしいことである。この事は小さな「協議会」のひな形であり、その点この小新聞の持つ意義は決して過小評価されるべきではない。「同紙第二頁」事実、(大阪の社会事業)「本紙の旧称」が長らく全国的に指導的立場にあった。これは最近の通りである。私は最近、元大阪市民生局長(昭和二十六年から六十二年)で大きな業績をあげた北正氏から、戦後復興期の大阪市政を語った。大阪の歴史「二十四号」の日に時が過ぎたわけだ。大阪の社会福祉の発展に矢張り矢張り、構の図解や同胞援護会が、H・Bは創刊以来四百号まで、続いていく唯一のコラムである。前半は主として、後半は私が担当しているが、特に初期の買集氏の鋭い問題指摘は時として物議をかもし、今

人間関係である。従って通。路の段差ではなくて、一般国民の「心の段差」をなくする活動こそが必要なのである。このような社会福祉は、果して公益のケア・サ

贈られ、一読、戦後直後の頂けたら幸いだ。社に携わって四十年が過ぎましたが、今迄は通った感覚の中で将来を予測しなければなりません。何故なら老人福祉を単に老人福祉としてのみとらえるわけではなく、総合化の問題も活発に取りあげて頂す。社会全体が高齢社会情報化、国際化、価値観の多様化、家庭環境の変化等々二一三の多様化、高度化等を背景として、かつてない広く、かつ深く変化を遂げていくからであり、既にその傾向が顕著に現れてきています。と、高輪社会の到来の話題は暗い面が中心になり勝ちであります。国は今後高輪社会に対応するため「明るい長寿社会の実現」を自ずから施策に重点をおいていくでしょうが、公は勿論、国民一人一人が深く関心を持つことであり、そのために学校、家庭内から問題意識を持つよう教育をすることが必要だと思います。(聖徳会大阪老人ホーム理事)

回顧と展望 岩田 克夫

が、当時三十代の半ばは、漸く仕事にもなれ、多くの友人もでき、よく一杯飲みながら口角を飛ばして話していたときで、大阪社会事業青年会なるものを作ったわけですが、何時解散したのか、青年時代が過ぎるとともに泡を自ずから施策に重点をおいていくでしょうが、公は勿論、国民一人一人が深く関心を持つことであり、そのために学校、家庭内から問題意識を持つよう教育をすることが必要だと思います。(聖徳会大阪老人ホーム理事)

福祉用語の解説

〔方面委員制度〕
大正七年に大阪護事務に關して市町村長府知事市町村が、補助機関と位置づけられ、知事囑託であった。そのため全国的に小河滋次郎と結んだ統一した制度とする必要で創設した制度。昭和十一年に「方面委員法」が公布された。今年で七十周年を「方面委員法」の公布となつて迎える。

老人福祉

お年寄りが住みやすい街づくり

お年寄りが住みやすい街づくり

お年寄りが住みやすい街づくり

お年寄りが住みやすい街づくり

お年寄りが住みやすい街づくり

老人福祉月間特集

地域老人福祉活動を訪ねて

訪ねて

大阪市に住む六十五歳以上の老人人口は、昭和六十年...

大阪の社会福祉



楽しく語りあうお年寄り (林寺センターで)

生野区林寺社協(林万喜) 住む虚弱なお年寄りなどを...

この活動のきっかけは元役員が外国の福祉事業を見...

現在、地域内の十六町会のうち十二町会で実施...

配達の仕事をするボランティアの皆さん(左端が式井食事...

歩いて行ける生野区林寺社協

のたため、林寺センターのなかの一...

ボランティアは二十名、ティア活動振興基金からの...

16年間つづく配食サービス

住吉区墨江社協 入部長をお引き受けしている、配食と弁当箱の回...



吉垣デイ・ケア運営委員長(右端)を中心に真剣な打ち合せ

大阪市の65歳以上のおとしより



奉仕銀行 昭和63年7月21日~8月20日の預託・払出はつぎのとおりです。

お知らせ 第一回・障害者自立読売絵画展 全国の障害者の優れた作品に賞を与え、自立への足掛りとする。

お知らせ 全国障害者将棋大会 障害者自身が企画、運営し、将棋を通じて親睦と技術の向上を図る。